



# 寄り添い型トレーニング ご紹介

パーソルプロセス&テクノロジー株式会社

## 目的

社員がUiPath Studio/StudioXを自律的に開発できる人材になる

## アプローチ 方法

実業務の開発を実施することで、即効性の高い研修を提供します。

- 1) 集合研修を実施し、基礎的な知識やスキルの習得をサポート
- 2) 週1~1.5時間の1on1開発サポート
- 3) 受講者ひとりひとりのスキルチェックを実施し、スキルを可視化

# 寄り添い型トレーニング

- 受講者自身の業務を題材とし、一人一人のレベルに合わせたトレーニングを提供
- トレーナーが1on1でサポートを実施し、研修修了まで伴走

## 背景

- ・集合研修のみでは理解度のばらつきが生じる
- ・「開発」のハードルが高く、何から手を付けていいかわからない



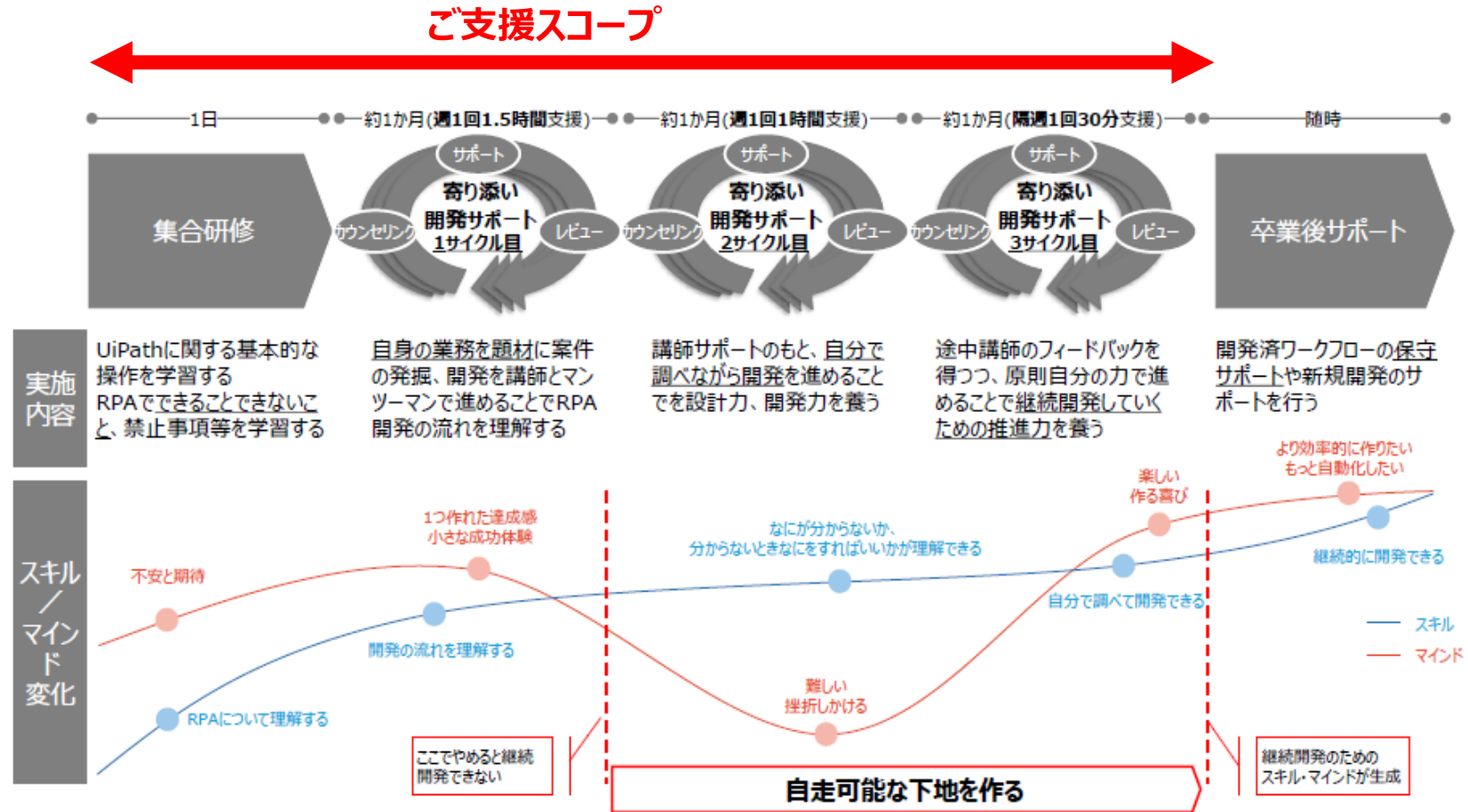
## 支援

- ・個人のレベルに合わせた寄り添い型支援
- ・自身の業務を題材にした実践型支援

## 効果

- ・確実にステップアップをしながら最後までやり抜くことが可能
- ・自身の業務を自動化するという成功体験を得ることで  
継続開発のスキル/モチベーションを習得

■ 継続開発するスキル、マインドを醸成するために、開発サポートを3サイクル実施する必要があると考えます



# 研修・サポート内容

ご支援内容	内容	形式	タイミング	時間	概要／備考
集合研修	UiPath Studio/StudioX研修	オンライン	個別開発サポート開始前	半日	<ul style="list-style-type: none"> <li>開発環境や受講者の現状・要望に合わせ、研修内容の変更も可能</li> </ul>
個別開発サポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓カウンセリング</li> <li>✓1on1開発サポート</li> </ul>	オンライン	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>1時間</li> <li>1~1.5時間×4回 ※1サイクル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>受講者主体でRPA化対象業務を複数準備。カウンセリングにて業務をヒアリングし対象業務を選定</li> </ul>
	✓スキルチェック	オンライン	最終サイクル終了時	1時間程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>各成果物を確認しフィードバック</li> <li>受講者ごとにスキルチェックを実施</li> </ul>
修了後サポート	修了後の継続学習用コンテンツ作成	配布	サポート終了時	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>受講者の要望に合わせサポート修了後の自学用コンテンツを作成</li> </ul>

# スキルチェックイメージ

受講者1名1名に対して以下のようなスキルチェックを実施する

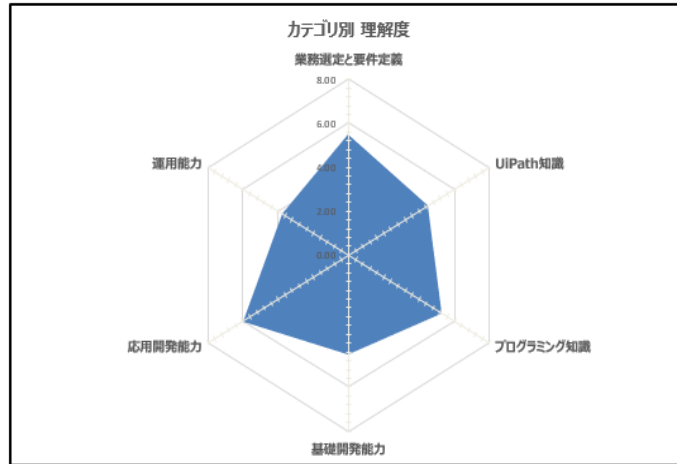
■ 参考：RPA開発未経験者の1サイクル完了時のスキル

評価日	2020/11/6
実施者	
評価 pt	62.8 /100 pt
判定	<b>Lv.1</b>

判定基準	
Lv.5	Points >= 90.0
Lv.4	Points >= 80.0
Lv.1	Points < 80.0

チェック基準	
◎	十分理解している/他人に教えらる
○	理解している/研修の中で活用した
△	知っている/説明のみ実施した
-	理解していない/研修では未実施

チェック %	◎	○	△	-
	3.2%	74.2%	0.0%	22.6%



カテゴリ	評価項目	チェック
業務選定と要件定義	業務フロー図を作成することができる。	○
	自身の業務から課題を見つけ、一部または全部がRPA化することができるのか判断ができる。	○
	業務RPA化するために、操作レベルで要件を定義することができる。	○
	ビジネスロジックとUI操作の違いを理解し、分離したワークフローを設計することができる。	○
	資料や外部情報を参照しながら、業務上の操作をUIPath上でのアクティビティに置き換えることができる。	○
UIPath知識	RPA(UIPath)の効果や有効性、キーバビリティについて理解している。	○
	UIPathのプロジェクトフォルダの構成を知っている。	○
	ライセンスを正しく認識し、ライセンス違反なく開発と実行をすることができる。	-
プログラミング知識	UIPathで使用される基本的な用語を理解している。(プロジェクト、ワークフロー、アクティビティ、セレクター)	○
	基本的な変数の型(Boolean, Integer, String, Datatable, GenericValue)の理解と使用ができる。	○
	それぞれのアクティビティの入力、出力に必要な変数の型について理解し、使用することができる。	○
	データ型のキャストの必要性について理解し、資料などを参照して実行することができる。	○
	.NETメソッドの必要性と利便性が理解できる。	○
基礎開発能力	必要に応じて.NETメソッドを参照し、使用することができる。	-
	引数について理解し、使用することができる。	-
	画面遷移のために必要なアクティビティを理解し使用できる。	○
	Excelアプリケーションスコープで任意のExcelファイルを参照し、編集することができる。	○
	条件分岐について理解し、資料などを参照しながら実行したい分岐処理を条件式に落とし込むことができる。	○
	繰り返し処理について理解し、目的に応じて繰り返し(各行)アクティビティを使用することができる。	○
	ExcelやCSV、Web上の表形式のデータをテーブル型の変数に格納できる。	○
データスクレイピング機能を使用することができる。	○	
応用開発能力	コーディング規約を理解し、コーディング規約に沿ったワークフローを作成することができる。	-
	UIPathのデバッグ実行について理解し、ローカルパネルなどの確認ができる。	-
	セレクターについて理解し、動的な要素に対応するために収集する方法を知っている。	○
	目的の要素を取得するために、変数を組み込んだセレクターを設定することができる。	○
運用能力	繰り返し(前判定、後判定)、繰り返し(コレクションの各要素)アクティビティについて理解し、使用することができる。	○
	ワークフローをフィルタリングなどのアクティビティを用いてワークフローの加工・編集ができる。	○
	アクティビティ単体や、ワークフローが想定通りの動作をするか確認することができる。	○
	アクティビティ単体や、ワークフローが想定外の動作をした場合の原因特定と、アクティビティもしくはワークフローの修正ができる。	○
	タスクトレイからプロセスを選択し、ロボットを実行することができる。	○
	対向システムの変更や、業務の変更に合わせてワークフローを修正することができる。	-

基礎的な知識や開発スキルを習得し  
簡単な業務のロボット開発ができる状態

# 【参考】目標とするスキル定義（1/2）

## レベル定義と責任範囲

RPA開発上の担当区分	利用ツール	UiPath習熟レベル	開発ワークフロー利用者			品質管理チェック			責任
			自部署 自分	他部署 他者	他部署	品管部門	自動CHK	申請書	
専任	プロフェッショナル開発者	6		○	○	○	○	○	主にCoEチームと連携し、組織全体の生産性向上を推進する ▶ UiPath Studioとその他ツールを組み合わせ、ソリューションを提案できる ▶ 大規模案件でのリスク分析・評価や高度な課題解決ができる
兼務	シチズン開発者	5	○	○	○	○	○	○	シチズン開発者のリーダーとして自組織内の開発案件を遂行しつつ、他者の開発をサポートする ▶ ワークフローの共通化や部品化が可能 ▶ 他者に対してトラブルシュートのアドバイスができる
		4	○	○			○	○	シチズン開発者の主力として、自部署内の業務効率化を推進する ▶ Studioを使い独力で開発標準通りに開発可能
		3	○				○	○	シチズン開発者として自身の業務をStudioもしくはStudioXを用いて自動化する ▶ StudioXを使い独力で開発が可能 ▶ 上位者の指示の元、Studioを使い開発可能
		2	○				○	○	シチズン開発者として、上位者の指示を仰ぎながら、自身の業務を自動化する ▶ 上位者の指示の元、Studio Xを使い開発可能
	業務担当者 (開発せず利用のみ)	Robot	1	-	-	-	-	-	定められた手順通りにロボットを利用する

# 【参考】 目標とするスキル定義 (2/2)

## 各レベルで求められる知識量

RPA開発上の担当区分	利用ツール	UiPath 習熟レベル	開発ワークフロー利用者			UiPath操作 / アクティビティ / .NET関数など
			自部署 自分	自部署 他者	他部署	
専任	Studio	6		○	○	Lv5のスキルに加えて、開発経験が豊富にあること。UiPathだけに限らず最適なソリューションを立案できる。
		5	○	○	○	UI Explorerを使用したセレクター改修、デバッグ実行・ローカルウィンドウの使用、And・Or・Notなど論理演算に用いるメソッドと真理値表、Element ExistやGet Attributeなど画面遷移判定時に必要なアクティビティ、デフォルト以外のアクティビティを利用できる。
		4	○	○		引数とinvoke、コレクション型変数（Array・List・Dictionary）とFor Each、データテーブルのフィルタ・マージなどのデータテーブルに対しての操作、変数を利用したセレクター改修、デフォルトのアクティビティをプロパティを読むかWebで調べて利用できる。
		3	○			基本的な制御構造、UI Automationアクティビティ、変数の利用とデータ型の理解、Try Catch、Excel Application ScopeとFor Each Row、ワイルドカードを利用したセレクター改修、Parseなどのデータ型変換、Date型変数と表示形式の変更の知識。
		2	○			Studioの知識は有しない。
兼務	StudioX					
業務担当者 (開発せず利用のみ)	Robot	1	-	-	-	-



# 【参考】 A Robot for Every Person

下記、UiPath社資料より抜粋

## エンドツーエンドで繋がる社内ユーザーの自動化活用



### オートメーションユーザー

アイデアを提案し、提供されているオートメーションを使用する従業員



### シチズンデベロッパー (セルフユーザー)

自分のためにオートメーションを開発するテクノロジーに精通した従業員



### シチズンデベロッパー (パワーユーザー)

自分と部門のために自分でオートメーションを開発するテクノロジーに精通した従業員



### RPAデベロッパー

会社全体にまたがるオートメーションの開発者



### CoE

セルフサービス自動化を一元的に統制し、ITと協力して全社的な展開を促進する管理者



PERSOL